

ゆくゆくはわが名も消えて春の暮

藤田湘子

俳句は「詠み人知らず」が良いと私は思う。もちろん作者が分かったほうが断然面白い句もあるが、作成時の事情や背景無しで、「名句は名句」として誰もが共有できる知的文化財産となり、年月とともに自然淘汰されながら読み継がれるのが望ましい。

藤田湘子の弟子は多い。現俳壇を見渡してもその影響を受け、俳句入門書を読んだ俳人がずらりと並んでいる。しかし、誰かが伝えなければ消去るかもしれない。

昔、ある俳人が原稿料の安さを嘆いていた。俳句はたった十七文字。されど小説や随筆の原稿数枚と比較しても、その才能、努力に比べれば金銭的代価は有って無きがごとし。今しばしその名を、俳号を愛おしみたい。